

ともに暮らす

外国人ってどれほどのいるの？何をしているの？

経済協力開発機構(OECD)によると、3か月以上滞在する予定で日本に来た外国人は2018年に50万人を越え、日本在留の外国人は近年増加の一途をたどっています。

私たちも、コンビニや飲食店など観光地でなくても日常生活の中で外国人と触れ合うことは、珍しいことではなくなりました。また外国人が働く農家や介護施設も多いですし、学校や保育所などでは外国にルーツを持つ子どもも増えています。

小郡市でも外国人市民の人口が急速に増加しており、現在、約900人の外国人市民が居住しています。国籍数は30近く、近年では、ネパールやベトナム国籍の人数が増えています。市内には2つの日本語学校があり留学生の割合が約47%と多く、次いで技能実習生の割合が約23%となっています。こうした変化の中、「多文化共生」という言葉をよく聞くようになりました。ただ、現実には、自分が住んでいる行政区に何人の留学生や技能実習生が住んでいるか分からないという市民が多いのではないのでしょうか。まずは、自分の身近にいる外国人がどのように暮らしているのか知っていくことから始めてみませんか。

仕事をしながら日本語を学んでいます

毎週火曜日の19時頃になると、小郡市人権教育啓発センターで行われている「おごおり日本語教室」に十数名の外国人が集まってきます。彼らは、昼間は技能実習生やALTとして仕事をしており、夜に行われる日本語教室が助かるということで、小郡市外から通ってくる生徒も沢山います。この教室で、日本語の習得だけでなく、日本文化や日本の生活に慣れるように学んでいます。



教室に通うみなさんに聞いてみました。小郡の「好きどころ」と「困ること」

①国籍 ②仕事 ③在住期間



ミロさん

- ①フィリピン
- ②自動車修理工場
- ③3年

好きどころ

・七夕神社(仕事が休みの日にジョギングをしに行きます)

困ったこと

ないです。社長がいつも相談にのってくれるので。



ライさん

- ①ネパール
- ②会社員
- ③7年

好きどころ

・野菜が安いこと

困ったこと

市役所の税金のお知らせが日本語で送られてくること。最初は数字しか分からなくて税金を納めないといけなことが理解できなかった。



ケイさん

- ①ジャマイカ
- ②ALT 英会話助手
- ③7年

好きどころ

食べ物。日本のカレーやみそ汁、たくあんが好きで自分でも作ります。

困ったこと

食品の原材料名が漢字で書かれていること。宗教上、食べられない食材があるので、フリガナがふってあるのかなと思います。

なかま 仲間として

障がい者福祉施設で働いています



ビバス アバス プロタプさん (ネパール出身、40歳)



2006年に来日後、日本語学校や福祉大学で学び、現在は目標だった福祉関係の仕事に就かれています。また、子育てを通じて地域との交流もあるアバスさんは後輩の留学生からも頼りにされています。

そんなアバスさんに仕事のことや後輩留学生のことについてお話を伺ってみました。

日本に来日したきっかけは？

ネパールの大学で経営学を勉強していたときに内戦があり、その時にボランティア活動をしました。それがきっかけで福祉のことを学びたいと思い、2006年に来日しました。日本語学校で2年間、福岡医療福祉大学で4年間学びましたが、その当時は福祉関係の仕事に就くことができる国籍が限られており、ネパール人の私は働くことができませんでした。

今はどのような仕事をされているのですか？

やっと2017年に外国人技能実習生の受け入れ枠が拡大されたことで、市内の障がい者福祉施設で働くことができるようになりました。私が働いている施設には職員が80人いますが、その内7人はネパール人、1人はアメリカ人です。現在、私は、チームリーダーとして利用者さんの自立支援に向けた計画を立て、チームでお世話をしています。

働く上で心掛けていることはなんですか？

利用者さんと接する際は、チームみんなが同じ目標を共有すること。そうすると利用者さんの回復や自立が効果的に進んでいきます。また、チームについては家族のような雰囲気になれるように声掛けをしています。例えば、「『私が少し頑張れば、次の人が少し楽になる。』そんな気持ちで仕事に取り組みしましょう」とか。施設なので日勤と夜勤があるのですが、お互いが出れることを少しずつ協力し合えると気持ちよく仕事ができますよね。



仕事以外にも、後輩の留学生たちからとても頼りにされていると聞きました。

そうですね。「病院で症状を伝えられないので付いてきてほしい」など、一日に100回以上電話がかかってくる時期もありましたよ。でも、彼らに「まずは自分で行って見て、上手いかなかったら電話して。自分の努力も大切だよ。」と伝えるようになってからは、そこまではかかってくるなくなりました。ただ、彼らも日本人の学生と同じように、勉強のことやアルバイト先での人間関係、この先の進学・就職について日々悩んだり不安に思ったりしています。そういう気持ちに寄り添える人でありたいと思っています。

